科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：社会学Ⅰ ILAS Seminar :Sociology I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授　　柴田　悠		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2026・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	月2	教室	共北3A			使用言語	日本語
キーワード	社会学 / 幸せ / 生き方 / 親密性（友人関係・恋愛・結婚・家族）						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

「幸せ」「生き方」「親密性」といった担当教員の研究テーマを参考にしながら、受講者各人が、現代のさまざまな社会現象や、自分自身の人生・生活上の問題について、自らの関心に即して、社会学などの先行研究（関心に最も近い査読論文1本以上）を参照・批判しつつ、独自の発想を加えた考察を行い、発表をする。
さらに、その発表内容について、出席者全体で発展的議論を行い、互いの考察を深め合う。
またその際、担当教員は、社会学の思考法を活かした発言をすることで、社会学の思考法を参与的かつ実践的に伝授する。

[到達目標]

社会学の思考法を用いて、現代のさまざまな社会現象や自分自身の人生・生活の背景にある「しくみ」（社会構造とコミュニケーションの相互影響関係）を、初歩的な水準で分析・説明・議論できるようになる。

[授業計画と内容]

基本的に以下の計画に従って授業を進める。ただし、受講者の状況などに応じて、内容を変更する可能性がある。

第1回　ガイダンス（発表の仕方、先行研究の検索方法）、受講者各人の発表日程の決定。
第2回～第4回　先行研究の選び方の相談会や、討論の練習を行う。
第5回～第12回　毎回1～2名が発表する。発表では、「社会現象や人生・生活についての問い」、「その問いに最も近い先行研究（査読論文1本以上）の整理と未解決点」、「その未解決点に関するできるだけ客観的な独自考察」、「問いへの暫定的な答え」、「考察の限界と今後の課題」を、レジュメに沿って口頭発表する。そのあと、出席者全体で発展的議論を行う。
第13回　予備日
第14回　まとめの討論
第15回　フィードバック（詳細は授業中に説明）

[履修要件]

特になし

[成績評価の方法・観点]

平常点（発表内容50点＋討論参加50点＝100点満点）によって評価する。

ILASセミナー ：社会学Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：社会学Ⅰ(2)

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

（関連ＵＲＬ）

https://sites.google.com/site/harukashibata/profile(教員紹介のページ)

[授業外学修（予習・復習）等]

予習は、今後の自分の発表のための準備を入念に行うこと。
復習は、毎回の授業内容をふりかえり、関連情報を調べること。不明点については、口頭かメールで教員に質問すること。
毎回の予習・復習の時間配分は、予習120分（平均）、復習120分を目安とする。

[その他（オフィスアワー等）]

総合人間学部の「基礎演習：社会学Ⅰ」（総人定員5名程度）と共通の授業。
履修人数を発表スケジュールに適した人数に制限する。
また、「感染による履修上の配慮」が必要となった場合には、急遽、Zoomを用いたハイブリッド形式に切り替え、対面参加者もZoom上で発言をしてもらう可能性があるため、Zoomにアクセスできる端末（ノートPC等）とイヤホン（できればイヤホンマイク）を毎回持参すること。

[主要授業科目（学部・学科名）]